

山田耕太教授への名誉教授の称号授与に関する推薦文

2023年6月7日教授会

敬和学園大学前学長の山田耕太教授は、千葉大学教育学部を卒業後、国際基督教大学比較文化研究科博士前期課程を修了されました。1986年には英国グラム大学神学系大学院博士課程を修了し、Ph.D.を取得されました。帰国後は、西南学院大学で非常勤講師を務め、1991年の本学開学時に着任されました。

1991年から1994年まで本学人文学部一般教育助教授、1995年から2003年まで国際文化学科教授、2004年の共生社会学科新設に伴い、2004年から2022年まで共生社会学科教授を務められ、演習の他に、「キリスト教学」「ヨーロッパ思想史」「キリスト教社会福祉思想史」「共生の哲学」「新約ギリシア語入門」「新約聖書の世界」等を担当されました。

研究面では、代表的な著書に、『新約聖書の礼拝：シナゴグから教会へ』（日本キリスト教団出版局、2008年）、『フィロンと新約聖書の修辞学』（新教出版社、2012年）、『NTJ 新約聖書注解エフェソ書簡』（日本キリスト教団出版局、2022年）等、数多くの著書、訳書、論文があります。新約聖書学の他にリベラルアーツ教育に関する論文も多数著しておられます。1999年から2001年までパウロ書簡の書簡理論的・修辞学的研究で、2007年から2010年にかけてフィロンと新約聖書の修辞学的研究で科学研究費の助成を受けられました。敬和学園高校の先生方との共同研究は、「太田俊雄の教育宗教思想（1）～（5）」（『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』2009～2014年）に結実させ、高校と大学の研究面での連携の好例となりました。2021年より日本新約学会会長を務めておられます。

大学運営に関しては、1997年から2004年まで教務部長・FD/カリキュラム委員長として本学の教学面の礎を作り、2004年から2011年まで共生社会学科学科長として開設されたばかりの学科組織をまとめられ、2007年から学長補佐、2009年から2014年まで副学長として新井明第二代学長、鈴木佳秀第三代学長を支えられました。本学の校歌（北島万紀子作詞、大中恩作曲）は、開学20周年の折、山田教授の尽力により制定されました。2015年より2022年まで第四代学長として2期務められる中で、地域貢献の担い手を育てる新しい教育プログラムを始め、一年次必修の「地域学入門」を始め、「アクティブラーニング演習」「地域学研究」の科目を新設しました。タウン（まち）とガウン（大学）のより良い関係を構築する「まちなかキャンパス化」のビジョンにより近隣市町村との包括的連携協定を結ぶなどし、「実践するリベラルアーツ」を推進されました。国内外の大学連携においては、2017年に広東海洋大学・寸金学院との教育学術交流協定を締結した他、同年には開学当初より交流のあったノースウェスタン・カレッジを訪問し、2018年に沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短大と、2021年にデンマークの Brenderup Højskole と教育学術交流協定を締結しました。2020年からは新型コロナウイルスのパンデミックの影響を受けましたが、一部オンライン授業を残しつつ、できるだけ早期に対面授業に戻し、学生への影響を最小限にとどめました。

山田教授は、1995年から2015年まで敬和学園の評議員を、2003年より理事を務められています。学外組織委員としては、大学基準協会評価委員、日本私立大学連盟教務委員、同公財政政策委員、キリスト教学校教育同盟中央教育委員、大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員等を歴任されました。そこで得られた知見は本学運営にも活かされ、本学は2003年に大学基準協会に加盟でき、2022年には4回目の審査に適合の認定を受けました。

32年間にわたる教育・研究・大学運営・地域貢献の以上の諸点を考え合わせて、敬和学園大学名誉教授規程第2条第1項第1号に基づき、山田耕太教授に名誉教授の称号を授与することを教授会にお諮りいたします。